自分の思いを大切にし表現活動を楽しむ子の育成を目指した指導の工夫

足利市立御厨小学校

1．はじめに

平成8年度に足小教研図画工作部会の会場校，平成9年度に栃小教研図画工作部会の会場校として図画工作の研究に取り組んできた。本研究は，その部会での実践資料をもとにした報告である。

2．主題設定の理由

(1) 児童の実態と教師の願い

本校の学校課題は「一人ひとりのよさや可能性を生かし，自己教育力の育成を図る」である。この学校課題を設定するにあたって，児童の実態・地域社会や親の考え・教師の願いなどを率直に出し合った。その中から，目の前の子どもたちの生活の様子を見ると，教師や親から指示されたり与えられたりしたことはどうにかやるが，今の自分がするべきことは何か，どうやってそれに取り組んでいったらいいのか考えることが不足しており，受け身の生活態度が感じられることが特に問題とされた。つまり本校の児童には自ら判断して行動し，自分を豊かな人間へと高めていこうとする「自己教育力」がまだ不十分であるということである。

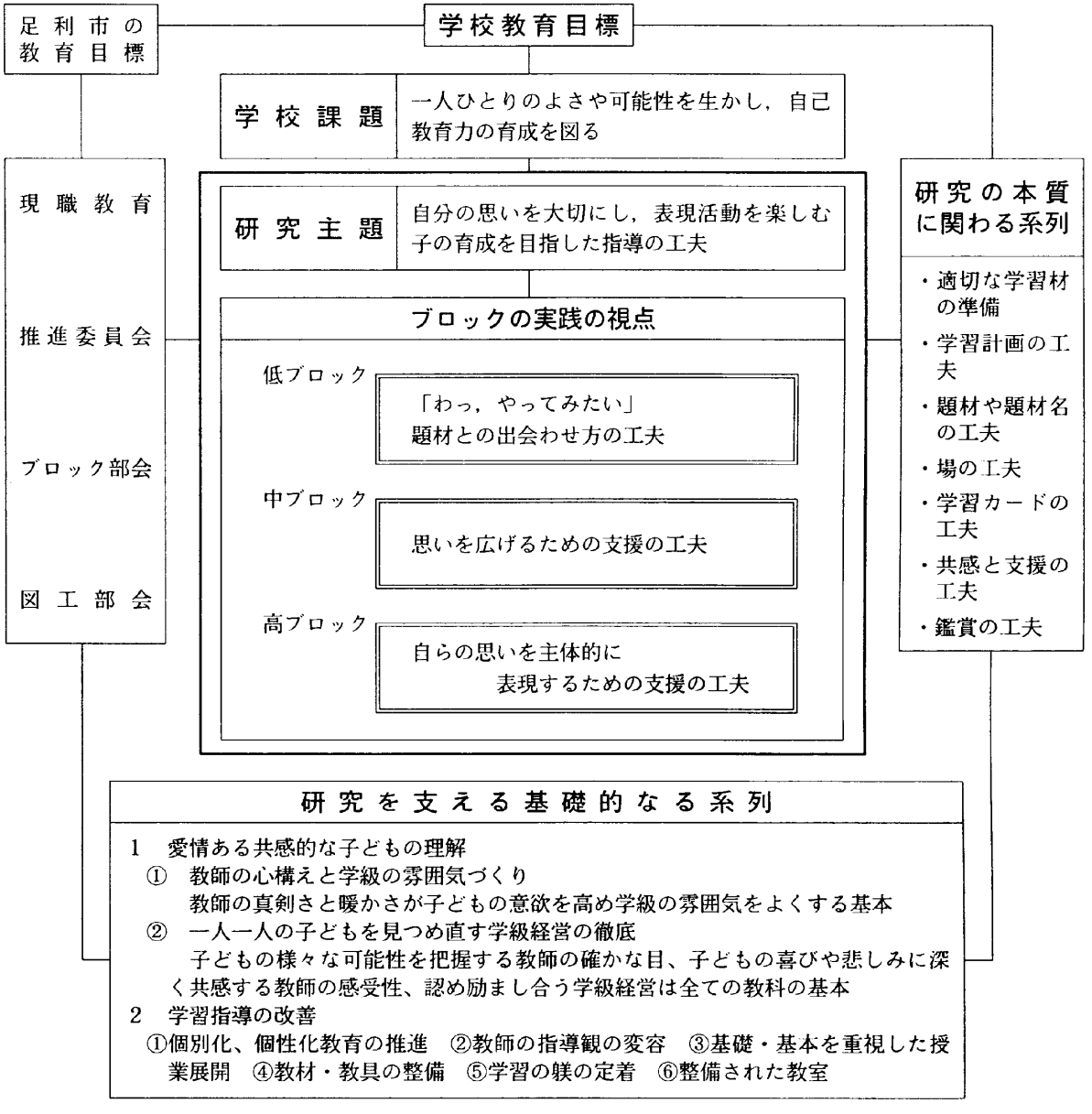
教師として，どの子にも自分の考えや夢を持ち自分のよさを発揮しながら人間らしく心豊かにたくましく生きていてほしいと思うし，そのように子どもたちが成長できるような教育を進めていかなければならない。そのためには，一人一人の中にある「よさ」や「可能性」を引き出し，自分らしさを発揮できるような自己表現の過程を繰り返すことが必要だと考える。自分は「こんなことがしたいなあ」「こうなったらいいなあ」という願いをもち，その願いに向かって努力をし，実現させることで充実感・満足感を持ち，新たな夢や希望に挑戦していくことは，指導要領に示されている「主体的に生きる」人間の育成といえると考えた。

(2) 子供たちの豊かな自己表現を目指して

平成7年度から取り組んでいる授業研究を進める中で，図工の時間を楽しみにし意欲的に取り組む子，いろいろな試みに挑戦し自力で仕上げようとする子が増えてきつつある。また，思いを持てることや思いを形に表すことの楽しさと満足感を得ることで次の学習も意欲的なものになってきている。その場かぎりの授業ではなく，意欲が次の学習につながることで子どもたちは螺旋階段的に成長していくだろう。このことは，図工の学習ばかりでなく普段の生活にも反映し豊かな学校生活作りにもつながっていくことだろう。

子どもたちの一人一人が自分なりのイメージを持ち表現活動を楽しめるような授業作りを基本にし，その表現や試みに共感し，子どもたちの豊かな自己表現を支援できるような教師を目指してこの研究主題を設定した。

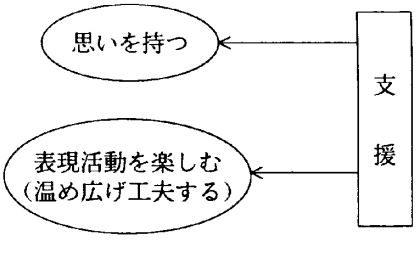
3. 研 究 構 想



4. 研 究 の 内 容

(1) 研 究 の 方 向

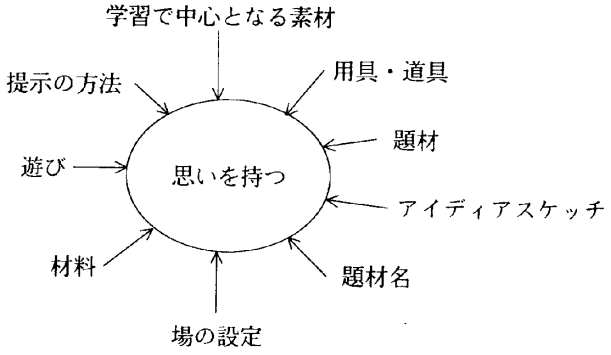
本校の研究主題である「自分の思いを大切にし表現活動を楽しむ」という内容を取り組むにあたって2つの柱を立てた。①自分の思いを持つ。②自分の思いを温め広げ工夫して表現する。特に，小学校においては自分なりの思いを持てることが大事なことだと考えた。なぜなら思いを持てることから全ての活動が始まるからである。



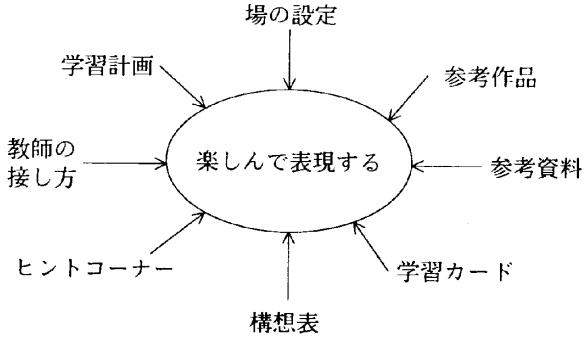
この2つの柱に向かって，本校として低中高ブロックごとに視点を設けて取り組んだ。低学年では「思い」を持つための題材との出会いの工夫を，中学年は「表現活動を楽しむ」ことを中心に「思いを広げるための工夫」，高学年では「主体的に表現するための工夫」について実践を積み上げ，研究に取り組んだ。

思いを持つ

「思いを持つ」ことに関しては，右図のような事柄と関連づけて研究を進めた。これらが有機的に結びつくことで，興味関心が高まり，より一層主体的に取り組むようになるのではないかと考えた。作ってみたい，表現してみたいという「思い」が 学習のスタートである。



楽しんで表現する



「楽しんで表現する」ことに関しては，左図のような事との関連を図りながら研究を進めた。自分の思い描いたものを形へと表現していくためには様々な手だてが必要である。本校としては，教師の直接の関わりばかりでなく，子どもたちの表現活動に生かされるであろう間接的な手立ても教師の支援として考えることにした。

(2) 研究の方向の具体化

研究の方向を具体化するために，指導案の中に「ブロックの実践」の項を位置付けた。

視点に迫る手だてを明確にすることが「思いを持ち，楽しんで活動できる」学習の構築につながると考え，授業研究では，この項目を中心にどんな手だてが子どもたちの活動にとって有効な方策であったのかを協議の中心とした。常に，机上の議論ではなく授業を通して確かめ合うことを基本に据えているので，検証のための授業研究会は多く設定した。

(3) 研究の実際

① 題材・題材名について

子どもたちにとって，魅力的であり新鮮な題材を開発することを心がけることにより，表現への意欲が高まるとともに，創造的な活動が期待できる。また，他教科との関連で生活科の野菜作りから「土のかみさま」作りの活動なども考えられた。

子どもたちの願いを託した題材名の提示により，自分たちのものとして活動を受け止めることができる。自分たちが創造した不思議な生き物を「ピカゴン」と名付け，題材名を「ピカゴンのったらハッピーハッピー」としたり，自分の作ろうとする島に愛着を持ってほしいと思う教師の願いを反映した「愛　アイアイランド」が生まれてきた。

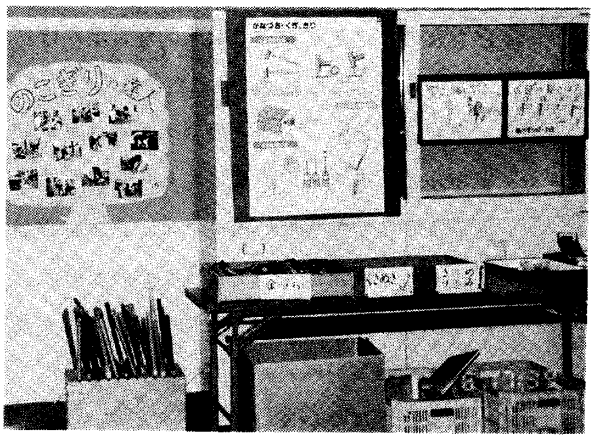
② 題材の提示について

子どもたちが興味を持って取り組めるような投げかけの工夫をすることにより，やりたい，楽しそうだという意欲を引き出すことが可能となる。教師の劇化「みんなあつまれもりの中」覆っていた布を引き上

げるときれいな紙に包まれたプレゼントが出現する「ふしぎなプレゼント」など，教師の創意工夫がたくさん考えられた。劇化，動体化，物語作り，映像からのイメージ化，視覚ばかりでなく聴覚や触覚などに訴えることなど，子どもたちと題材との新鮮な出会いを工夫してきた。このようなことにより自分なりの思いを持ち，思いをふくらますことに役立っている。また，題材を印象づけるための素材を生かした材料を使って作ったものを提示することにより，やってみたいという意欲を喚起することにつながっている。「トントントンこれなあに」では木片を使い，「とび出せカード」ではとびだした文字を題材名として提示するなど多様な方法を試みてきた。

③　遊ぶ活動を取り入れることについて

子どもたちの実態を調査してみると，図工が好きな子は多いが，材料や道具について扱い方に不安を抱いている子どもが結構いることが分かった。自分なりの思いを持とうとする以前に，戸惑いがあっては意欲が減退し豊かなイメージを持つことは期待できない。そこで，材料を使って遊ぶ活動を取り入れることによって，材料の特質を体で感じ，道具の扱いに慣れることで，自分の思いを具体的な形へと表現することを可能にするだろうと考えた。「なぞのロケット　それとも大かいじゅう」ではヒートカッターで十分に切る遊びを取り入れた。「ダンボールでつくろう」では，丸めたり重ねたりはがしたりなどの遊びを通して，ダンボールの素材としての面白さを発見することができた。



④　支援のためのコーナーについて

・　参考作品コーナー

参考作品は子どもたちのイメージを固定化してしまう危険があるのであまり提示はしないが，学習の進度に合わせていくつかの基本的な加工例や完成品などを設置しておくことで発想の広がりが期待できる。

・　参考資料コーナー

ビデオ資料，本，図鑑など子どもたちの発想に役立つ場があることで，必要に応じて利用する子が見られる。

・　道具コーナー

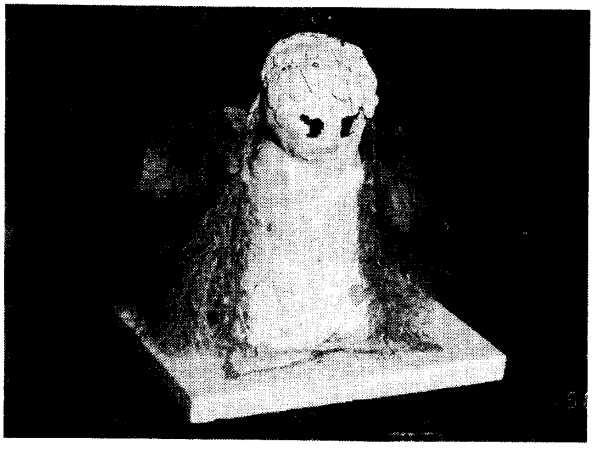
様々な道具が用意されていることで，必要に応じて手軽に使えるので支援の幅が広がる。

・　チャレンジコーナー

新しいことに挑戦する場合など，失敗しても大丈夫という安心感から活動意欲を引き出すことができる。

・　ヒントコーナー

「世界で一つのアイディアボックス」ではスプレーの効果と使い方，また木取りの仕方や着色の仕方などにより，自分の思いを効果的に表現する場として役立っていた。



⑤　学習の場の設定について

その場の雰囲気に浸りながら活動できる場を設定することにより，創作活動を心地よく刺激し，自分なりの思いを広げて活動することができると考えた。事前に青いビニルシートの上に貝や砂を置いて海を作りその中で活動をした「海の中のパーティー」，軽快な音楽を流して心地好いリズムとともにぐるぐるを思い切って描けるような雰囲気作りを心がけた「ぐるぐるのだいへんしん」などが生まれた。また，リラックスした気持ちで自由な活動ができるような広々としたスペースを確保した屋外や空き教室，絨毯のある部屋など創作活動に適した場をできるだけ取り入れられるような手だてを整えてきた。

⑥　教師の接し方・鑑賞について

導入時では，指示を極力減らしてやってみたい気持ちを大事にしてきた。活動中はできるだけ子どもたちの活動を見守り共感的な言葉かけをし，一人一人のよさを見つけられるよう心がけてきた。

また，子ども一人一人のつぶやきに耳を傾け，手が止まり考えている様子をじっと待てる姿勢を取るようにしてきた。鑑賞では，自分の作品を認めてもらい愛着がもてるよう心がけてきた。このことが次の学習への大きなステップであり意欲へとつながっていく。

⑦　指導計画について

子どもたちの活動は決して直線的なものではない。構想表に基づいて作品作りを始めたとしても途中で変更したり，考えが変わったりする場合も見られる。低学年では，平面で始めた活動がいつの間にか立体に変わってしまうこともある。そのような子どもたちの学習の過程に対応し，発想や構想の試みに共感できる柔軟な学習計画を立案することで，安心して表現活動に取り組める。また，子どもたちの思いの実現を可能にしていくためにも，年間計画の改善も進めてきた。

(4)　研究を支えるために

研究を実りあるものとし，研究主題実現のために以下の事を授業研究とともに進めてきた。

ア．年間計画の作成

イ．図工室，準備室の整備

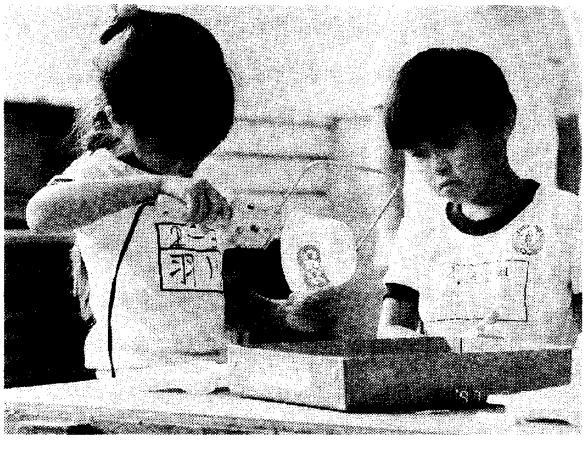
ウ．職員研修の充実（水彩画講習会，焼き物実習など）

エ．校舎内の環境の整備（くり子の美術館，絵画コーナーなど）

オ．指導資料や作品の保管

カ．設備，道具，用具の充実

キ．学習材，身辺材の集積（素材室）



5．研究の成果と課題

児童の変容

図工の学習に対して児童の興味関心が高まり，図工の時間を楽しみにし進んで活動する姿が見られるようになってきた。

① イメージを豊かにもてるような場の工夫により，興味関心を持ち，自分なりの思いで表現をする姿が見られるようになった。

② 題材名や題材との出会わせ方の工夫により題材を自分のものとして受け止めて取り組む児童が増えてきた。

③ 豊富な学習材の準備により，材料や素材に児童の目が向くようになり，豊かな発想が生まれてきている。

④ 学習の弾力化により，素材や用具などへの戸惑いもなくなり，安心して活動に参加できるようになってきた。

⑤ 学習カードなどの活用により，思いを広げて伸び伸びと表現できるようになってきた。

⑥ 出来た作品で遊ぶことや鑑賞の工夫などにより，一人一人のよさを認め合う中で表現することに自信や満足感を持つとともに，作品への愛着も生まれてきた。

教師の変容

教師中心の授業から子ども主体の授業を心がけるようになり，児童一人一人に目を向ける目や心が育ってきた。

① 児童一人一人に目を向けた授業やその子のよさを見つけることを心がけるようになった。

② 作品の善し悪しではなく，活動の過程を大切に考えるようになった。

③ それぞれの子の思いの実現のため援助するという考え方が身についてきた。

④ 素材や道具，材料などに目が向くようになった。

今後の課題

① 教師自身の研修（学習材，用具，児童理解）を深める。

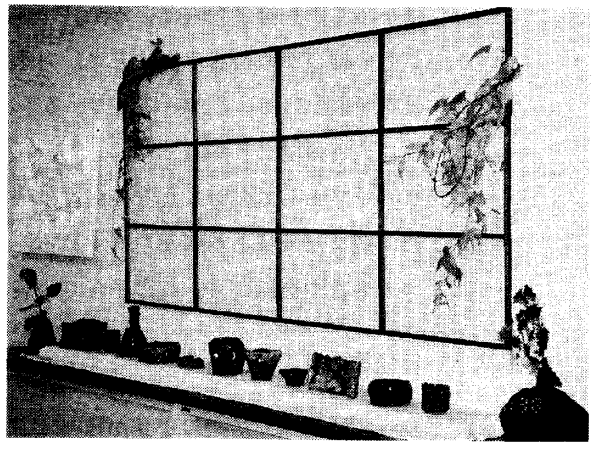
② 児童の表現や試みのよさを認められる教師自身の感性を磨く。

③ 学年間の系統性（題材，学習材，道具，技法など）を考える。

④ 学習カードなどの工夫充実により，主体的な学習をより進める。

⑤ 学校全体の環境整備と資料の保管に心がける。

⑥ 図工の学習の成果を学校生活全般にも広げ，充実した学校生活の創造を心がける。



6．実　践　例（本校の実践記録の抜粋）

4年生の実践例

「いい場所見つけたよ……屋外編」（造形あそび）

1．題材について

活動場所の特徴がきっかけとなって，その場所や材料を生かしながら，みんなで取り組むダイナミックな活動を期待している。冒険心と知恵を出し合い，想像を広げた世界に遊べるような時間と空間であってほしいという願いを込めて本題材を設定した。活動そのものに意味を持たせ，環境や材料と主体的に関わりながら，楽しく活動してほしいと願った。

2．活動の過程

1次

見慣れた場所も，ちょっと手を加えるとわくわくするような場所になるよ。どこをどのように変えるとわくわくする場所になるか，校庭に出て探してみよう。

① 自分の気に入った場所を地図に書き込み，どのように景色が変わるか，アイデアスケッチをする。

② 同じ場所や同じ考え方を選んだ友達がいたら，話し合う。

・どこから見るか視点を決めて写真を撮る。

・材料や道具を考え，計画を立てる。

早速，体育器具庫を覗いてロープやコーンを持ち出して「顔」を作っていた。滑り台ジャングルジムなどの遊具施設や切り株・池などのプレイランドが人気場所だった。撮った写真の上にOHPシートを4～5枚置いて，いろいろなアイデアをペンでスケッチした。

2次

場所や材料を生かして，楽しい場所に変身だ。思いついたらどんどんチャレンジ難しかったら力を合わせて！

最終的に11グループでスタートした。グループ活動が充実するこの時期に，互いの持ち味で活動することを認め合ったり，刺激し合ったりするような協力学習を取り入れていくことは，大変効果的だった。以下3つの視点から支援した。

① 主に環境との関わりから

・木や草花などに装飾する場合は，自然の中に調和しているか，美しいかを問いかけていく。

・ちょっと手を加えるだけでその場所が生きないか，どの方向から見ると思いが伝わるか。

② 主に材料・道具（技法）との関わりから

・道具の正しい使い方や保管の仕方など安全面は個別に支援していく。脚立や木など高い所は足場を確かめて声を掛け合っているか。

・ひもの結びかたや組み立て方は，得意な子が他に教えられるようにすすめる。

・材料を生かしているか。悩んでいる子には，材料コーナーの利用や活動中の材料集めも認めていく。

③ 主に人との関わりから

・グループとしておおまかな方向性は決めて活動するが，一人一人の興味や思いつきを消さないように，各々が興味ある所からすすめる。

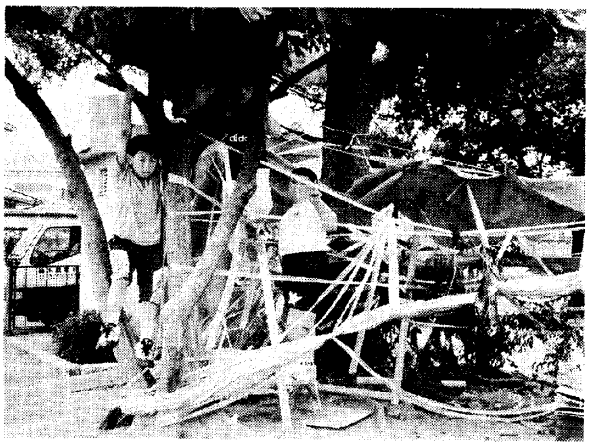
・つぶやきや会話から，その子なりの表現の工夫を見つけていく。

3次

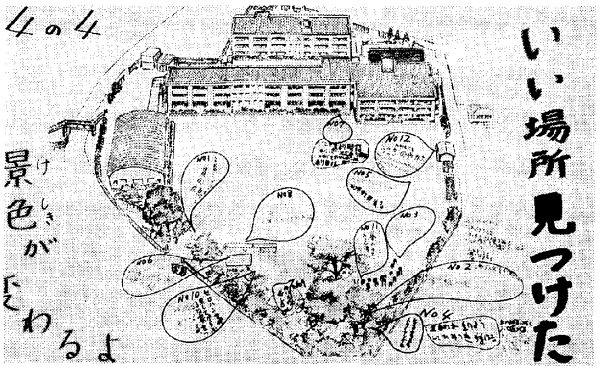
自分達や友達が作ったものを見て回り，そのよさを味わおう。

グループによって活動の中身が様々でどの子も驚きの表情を見せていた。活動場所から少し離れて回

りの景色と比べたり，二階の教室から眺めたりした。昼休みには下級生に開放して，共に遊んだり，写真やビデオに残したりした。たった一日限りの作品で，形として残すことはできないが，活動そのものの心地好い疲れは成就感となって心に残るだろう。等身大に写し出されたVTRを見ながら，活動の振り返りができたこともよかった。



～３本の木にテープでぐるぐる巻きした秘密基地～



～気に入った場所見つけた～

～アイデアスケッチ～

3．終　わ　り　に

屋外という活動場所の広がりは，子供の造形への意欲をかきたてる一方法であると思う。今回，校内で出されるせん定された枝や大きな葉を思う存分利用できたこと，水泳が始まり，校庭を一日中使えたことなどの幸運もあった。

また，基地作りや隠れ家づくりなど全身を使った大きな造形活動では自然材を中心に使っていた。切り株を人や大きな布をかぶせて竜にみたてる子供の発想はおもしろい。普段見慣れた景色や空間にちょっとした材料を持ち込んで，楽しい空間を作り出していた。

評

図工科は，児童一人一人の思いなどを大切にした児童主体の造形的な創造活動を通して，その基礎的な能力を育てるとともに表現の喜びを味わうようにすることが中心的なねらいであります。そこで，本校は，平成9年度栃小教研指導法研究会の会場校となったことを契機にこの3カ年，研究主題「自分の思いを大切にし表現活動を楽しむ子の育成を目指した指導の工夫」を設定し，図工科の学習指導の改善に取り組んでこられました。

子ども達の「思い」を大切にしながら，「よさ」や「可能性」を引き出し，自分らしさを発揮して，意欲的に表現活動に取り組める児童の育成を目指して研究を進めてこられました。その特色を大きく次の3点にまとめてみました。

1　一人一人が「思いを持つ」という過程を重視し，題材，題材名の工夫や豊富な学習材の準備，アイデアスケッチなどを有機的に結びつけながら意欲づけが図られています。この際，題材名や提示の仕方なども常に児童の立場から繰り返し見直し，楽しいネーミングや興味あふれる活動が多く提案されています。また，遊ぶ活動を通して，素材の特性を理解することにより，思いを広げさせたり，道具に慣れ親しませる工夫もされています。

2　「楽しんで表現する」子を育成するために，環境構成をはじめ，実に多様かつ丁寧な支援を実践されています。教室や図工室の至る所に支援のための様々なコーナーが設けられ，子どもたちは必要に応じて，参考作品を手にしたり，試作をしたり，道具の使い方を学んでいます。中でも，ヒントコーナーには，子どものニーズに合わせた多様な支援がさりげなくされており，子どもの思いを大切にしたいという教師の願いがにじんでいました。また，校庭が，体育館が，そして教室が「創作活動の楽しい場」として設定されていて，雰囲気づくり，意欲づけに効果的でした。

3　研究を支えるものとして，年間計画の見直し，図工室，教材室の整備，素材の収集，学習材の開発と累積といった地道な取り組みを全校態勢で行い，多くの実技研修を通して教師自らの実践的指導力を高める努力を行っています。

また，愛情ある共感的な子ども理解と一人一人の子どもを見つめ直す学級経営を研究の基盤ととらえ，子どもの喜びや悲しみに深く共感できる教師の感受性や子どもの可能性を把握する確かな眼を大切にし，認め励まし合う学級経営づくりに力を注いでいます。

子ども達が自らの思いを大切にし，自分らしさを発揮しながら，表現活動にチャレンジし，自力で作品を仕上げていく，主体的な学びを獲得する過程をいかに支援したらよいかという今日的テーマに全校態勢で取り組まれ，多大な成果をあげられましたことに敬意を払うとともに各先生方の尽力に感謝申し上げます。

各学校においても，本校で実践された丁寧な実態把握と個に即した支援の実際を大いに参考としていただければ幸いです。